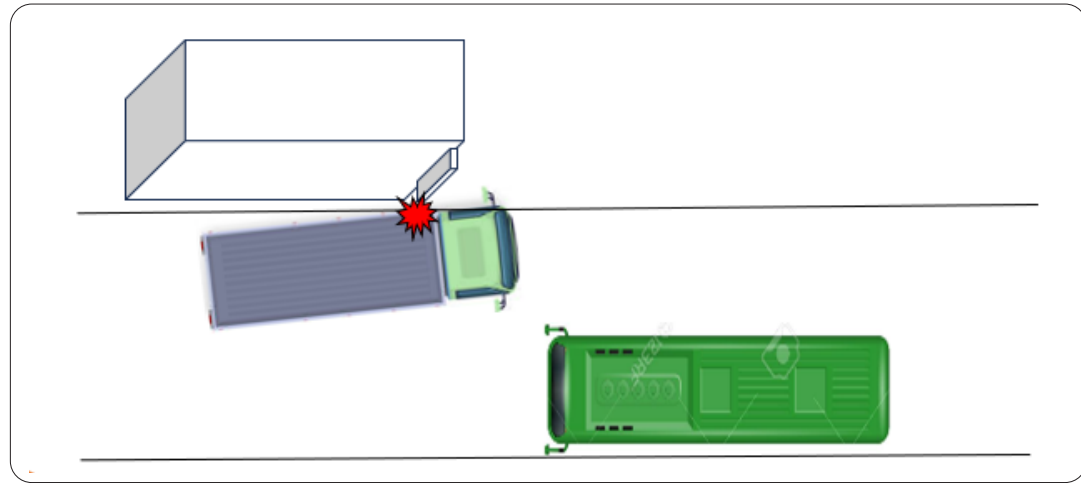


# 職場における交通安全指導

Part 144

## ■中型貨物車が、すれ違い時に商店の看板に衝突



### ■事故の概要

- 事故の当事者  
当事者A（中型貨物車）：20歳代、男性  
当事者B 看板
- 被害状況  
A：アルミ保冷コンテナ破損  
B：看板損壊
- 発生場所  
中央線のない道幅の狭い道

### 事故状況

Aは、入社歴2か月の新人運転者で、食品配送業務で中型貨物車の保冷車でスーパー等に食品を配送する業務を担当していた。

事故当日は、積荷の仕分けに時間を要し、通常よりも30分ほど遅れて出庫した。途中で渋滞に巻き込まれ、予定の時間を大幅に過ぎてしまい、焦りを感じていた。

Aは少しでも遅れを取り戻すため、予定ルートの幹線道路ではなく、中央線のない道幅の狭い裏道を走行することにした。

裏道に入ると渋滞もなく、ここで一気に遅れを回復できると思い、速度を上げ走行していた。しばらく走行し、対向で路線バスが走行してきたが、焦っていたため速度を落とさずに道路の左側に寄ろうとハンドルを切ったところ、自車の左上部が商店の看板に衝突し破損させた。

### 事故の原因

事故の原因は、Aが焦りの気持ちから、不慣れなトラックで車両感覚が乏しいまま、道幅が狭い道路で速度を落とさずにすれ違いをしようとしたことです。

## 安全指導

今回のような事故を防ぐために指導する方は次のことに注意しましょう。

### ①焦りの心理の危険性を理解させる

トラック輸送は、積荷を「安全・迅速」に運ぶことが重要ですが、新人運転者の場合は気持ちに余裕がなく、焦ってしまうことが少なくありません。

積み込み作業の遅れや、交通渋滞等で到着時間に遅れてしまうと、遅れを取り戻そうと車間距離を詰めた運転になることや必要以上にスピードを出す傾向があり、事故を起こすケースがあります。

焦りの心理の危険性を理解させるとともに、前もって渋滞を見越した早めの出発を指示することや、指定時間に間に合わない場合の連絡方法等の対応を、運転者と共有しておくことも重要です。

### ②自分の性格を理解させる

運転には、ドライバーの性格が表れます。特にせっちな人やイライラしやすい人は焦りや急ぎの心理に陥りやすいので注意が必要です。

性格は簡単には変えることはできませんが、運転中に平常心を保つためにも特別適性診断の結果を活用し、焦りや急ぎの心理にならないように自分の性格を理解させるようにしましょう。



### ③車の死角や車両感覚を把握させる

新人運転者の多くは運転経験が浅く、トラックの特性として車高や車幅、車体の長さや内輪差などの知識が正確に身につけておらず、商店の看板や構内施設への衝突、狭い道路での対向車とのすれ違い時の接触、内輪差での接触といった事故につながります。

車体の大きなトラックは、死角部分が多く存在します。自分の乗務車両でミラーや、バックモニターに映る範囲がどの程度なのか、死角部分がどの範囲なのかを事前に車庫内で体験させることや、添乗指導などでミラーの使い方や車両感覚を身につけさせることが必要です。

※当組合で作成した事故防止対策動画をご活用ください

### ④コメンタリー運転の実践

運転中に自分が見た情報や判断内容を言語化することで、周囲の状況に対する意識が高まり、見落としが減少します。

「前方よし」「対向車注意」などと声に出すことは、前方の状況に一段と気づきやすくなり、交通状況を的確に把握するために有効な手段だと考えられています。運転経験が浅い運転者に積極的にコメンタリー運転を実践するよう指導しましょう。

車体の大きなトラックは、運転中は広範囲にわたっての目配りや気配りが必要です。乗務車両の高さや車幅などを確実に把握し、気持ちを落ち着けて正確な運転を行うよう指導しましょう。